

演題番号

## 施設職員の口腔ケア知識・行動と歯科衛生士の関わり ～みどりモデルを用いた調査～

いづみ まや

事務局記入)

○泉繭依(九州看護福祉大学看護福祉学部大学院)、生野繁子(九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科)、筒井昭仁(福岡歯科大学口腔保健学講座)

【背景】高齢者の口腔を良好に保つことが全身の健康維持に重要であると報告され、オーラルヘルスプロモーションの重要性が指摘されている。しかしながら介護施設に勤務する歯科衛生士は、就業人口の0.2%であり、日常の口腔ケアは歯科専門職以外の職員に委ねられている。平成21年度の介護報酬改定で、施設入所者への口腔ケア提供態勢の向上を目指して、月1回、歯科医師の指示で歯科衛生士が介護職員に助言指導を行い、施設がケアマネジメント計画を作成した場合、口腔機能維持管理加算が算定できるようになった(30単位/月/人)。3年が経過したが、算定状況、サービスの認知度、歯科衛生士の関与、施設職員による評価などは把握されていない。

【目的】介護保険施設職員の口腔ケアに関する知識・行動と助言指導を行う歯科衛生士の関わりを包括的に明らかにし、歯科衛生士による施設職員への助言指導内容を再検討することを目的とした。

【方法】対象は、協力が得られたF県の介護老人保健施設18、介護老人福祉施設18、介護療養型医療施設5、合計41施設の施設長41名及びケアを担当する全職員1351名である。調査は平成23年7月-11月に、みどりモデルの枠組みを用いた無記名質問紙で選択回答方式とし、郵送法で実施した。健康・QOLの項目については歯科保健関連QOL尺度Oral Health Impact Profile(OHIP)日本語版を用いた。倫

理的配慮についてはK大学倫理審査委員会にて承諾を得た。

【結果】施設長回収数は32名(回収率78%)、職員回収数は926名(女:712、男:211、不明:3、回収率:69%)。入所者は、会話がスムーズにできない(43%)、食事に満足していない(35%)等の口腔に関わる困りごとを抱えていた。80%の職員は毎食後に口腔ケアの介助を行っていたが、時間は1~2分程度(48%)が約半数を占め、81%の職員が口腔ケアに困難を感じていた。食生活の確保には口腔機能の維持が不可欠であるが、歯科衛生士との連携が「いつもある」と答えた職員は13%で、食事摂取時の訪問については77%の職員が「訪問がない」と回答した。52%の職員が自施設の加算状況がわからないと回答し、加算の認知度は約半数であった。施設職員は、口腔ケアの方法や知識について情報が少なく、歯科衛生士の助言指導態勢も不十分な様子が見受けられた。

### 【検討課題】

- ① 施設職員の口腔ケア知識・行動について
  - ② 介護保険施設、および職員への歯科衛生士の関与について
  - ③ みどりモデルを用いた調査の妥当性、質問項目の配置について
- 介護、食、口腔ケア、教育等に関連する多職種の参加をお願いします。

E-mail ; izumi619@kyushu-ns.ac.jp